

三重ものづくり改善インストラクター養成塾

令和4年度

～受講者募集のご案内～

募集期間

令和4年7月11日（月）から令和4年8月19日（金）
（第1次締め切り）

公益財団法人 三重県産業支援センター 北勢支所
担当：長谷川、井上、小池

〒510-0074 三重県四日市市鵜の森1丁目4-28（177テクノプラザ 1F）
TEL059-327-5830 FAX059-327-5831
URL:<https://www.miesc.or.jp/> Email: kaizen@miesc.or.jp

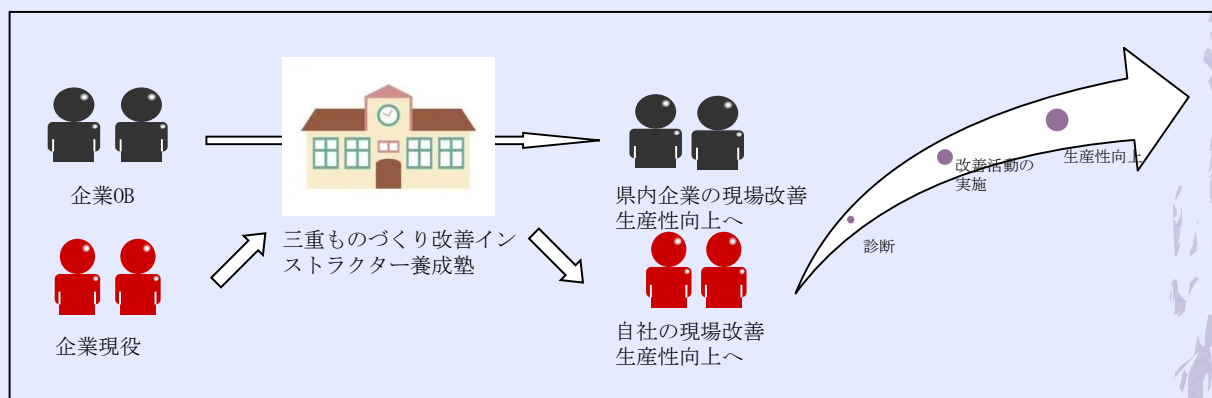
ものづくり改善インストラクター養成塾について

公益財団法人 三重県産業支援センターでは、昨年度に引き続き、ものづくり改善インストラクターを養成する「三重ものづくり改善インストラクター養成塾」を開校します。

今、ものづくり企業においては、企業での生産革新を行い、企業間競争に打ち勝てる強い現場づくりともものづくり現場を改善し続けられる企業体質を改変する体制づくりが求められています。その企業体質のレベルアップを図る為、スキルの高い人材が必須であることから、本養成塾では、生産革新（生産の見える化やIoT化・納期短縮と在庫削減・管理会計とコスト削減・更には品質向上、等）のノウハウや経営面でのDX化推進の基礎を身に付けていただき、藤本教授理論を基軸にした「ものづくり改善ネットワーク」との連携のもと、経験豊富な講師陣の講義ともものづくり現場での実習等により様々な手法を学んでいただくことで、県内中小企業・小規模企業での生産革新や改善支援活動の担い手となる「ものづくり改善インストラクター」を養成します。

受講者として企業から派遣された方々は、自社内でのものづくり改善活動での指導者的な役割と改善活動のインストラクター役を担って頂く人材です。また、企業を退職されたOBの方々は県内企業の派遣要請により、企業の生産革新指導者になっていただきます。

本養成塾では、ものづくりの重要性から紐解き、生産の流れや製造工程の流れで無駄のない「ものづくりの良い流れ」の理論と手法を身に付けることができます。また、本養成塾は座学だけでなく、実際に製造現場において課題を抱えている企業に対し、実践的な改善活動を行うものとなっており、実際の製造現場等において必要な知識を体感的に学ぶことができます。



三重ものづくり改善インストラクター養成塾開催要領

開催内容

【受講期間】 令和4年10月14日（金）～令和5年1月13日（金）
13日間（座学6日間、企業実習＆報告会7日間）

【場所】 座学：四日市市三浜文化会館（四日市市海山道町1丁目1532-1）予定
企業実習先：県内企業2社を予定。確定次第別途ご連絡いたします。

【募集定員】 10名程度
※申請書類受理により受講者を決定し、書面で結果を通知させていただきます。

【募集対象】 下記のいずれかに該当される方

- ①県内の製造業等に勤務し、製造現場の管理や改善に携わっている
（または携わる予定のある）ものづくり企業のリーダークラスの方
- ②製造現場の経験豊富な退職者（OB）の方も応募可能です。
- ③支援機関の職員や社員等も同様に応募可能です。

【受講料】 ①（企業現役の方） 24万円（税込）R3年度より適用
※当講座は受講料への補助金（厚労省の人材開発支援助成金）が適用となる場合があります。詳細はお問い合わせください。
② 企業に属していない方は講座受講料の特例措置が可能ですので、
ご相談ください。（例：支援機関の方10万円、企業OBの方3万円）

【主催】 公益財団法人 三重県産業支援センター 北勢支所

日程とカリキュラム概要 (案)

※カリキュラムの構成等が一部変更となる可能性があります。

		実施日		9：30～12：00			13：00～17：00		開催場所	
座学	10月	14日（金）	（開校式）	プレゼンテーションと序論	ものづくりの基礎概念	競争力と企業パフォーマンス	フルバリューとDXの基礎概念	四日市市三浜文化会館		
		15日（土）	製品開発プロセス		開発期間と製品開発の概論	生産管理（納期・工程・在庫管理）				
		28日（金）	原価低減（VA/VE）とコストダウン		IEの基本（コストと生産性）	標準作業と標準時間の設定について	IE実践演習			
		29日（土）	5S活動・ムダ取り・3定による課題の見える化			ものづくり企業のICT利活用企業のDX化推進とIoT利用事例の紹介				
	11月	11日（金）	品質の管理と改善事例			ものづくりの管理会計		四日市市三浜文化会館 実習先企業		
		18日（金）	現場改善の進め方（事例紹介）と「よい設計・良い流れ」講義		生産革新の推進（正味作業時間とVSM）実習要領の説明		現場実習①（ものづくり現場の見学）			
		25日（金）	現場実習②						実習先企業	
		26日（土）	チームディスカッション①						四日市市三浜文化会館	
現場実習	12月	9日（金）	現場実習③					実習先企業		
		10日（土）	チームディスカッション②					四日市市三浜文化会館		
		16日（金）	現場実習④			改善・改良策の諸施策の検討 発表提案書の作成		実習先企業		
		23日（金）	発表提案書の見直し・修正			発表準備 担当部門決定	改善案の提案（実習先発表）	実習先企業		
令和5年1月13日（金）			－			全体発表会	閉校式・修了証授与式			

カリキュラム体系（詳細）

1		ものづくりの基礎概念	改善インストラクターとして、ものづくりの基本とそのプロセス全体を理解する。
2	概論	競争力と企業パフォーマンス	企業競争の中での組織力や収益性に対する考え方をまとめ、企業のパフォーマンスの回り方も理解する。
3		フレキシビリティとDX化の推進	企業運営や生産プロセスの中での柔軟な経営体制と運営について理解し、IT活用のシステムについても理解する。（DXの基礎概念）
4		製品開発プロセス	製品開発プロセスの中で、開発期間、開発の生産性とDR等企業の総合商品力を理解する。
5	概論	開発期間と製品開発の概論	製品開発にもリードタイム管理が必要となり、しかも製品の価値を如何に上げた開発が重要であることを学びます。
6		生産管理（納期・工程・在庫管理）	受注管理～納期管理は生産プロセスの中でのものづくり管理の必要な管理であり、納期（リードタイム）・工程（工数）・在庫などに現れることを理解し、システム管理の推進とその基礎を理解する。
7	手法	原価低減（VA/VE）とコストダウン	図面や現物から、原価計算基準等を駆使して、VA・VEの手法で、部品の原価低減によるコスト改善を理解する。
8	手法	IEの基本（コストと生産性）	現場改善や現場のレイアウト改善など基本であるIEに関する手法を理解する。
9	手法	標準作業と標準時間の設定	ものづくり現場の基礎である標準作業と標準時間について、その測定と設定方法を理解する。
10	演習	IE実践演習	ピンボードを使ったチーム別合理化演習を行います。
11	手法	5S・ムダ取りと3定による課題の見える化	現場改善活動（小集団活動）、5Sの再確認 ムダ取り理論、三定（品、位、量）
12	手法	ものづくり企業のICT活用 企業のDX化推進とIoT利用事例の紹介	改善・改革のスタートは異常値の可視化であり、「見える化」であるが、これのIoT活用の手法の理解を深める。又、ものづくり改善インストラクターに求められる基礎的なICTの活用と活動の中で効果を上げるためのデジタルマインドを織り込んだDX化手法の基本を理解する。
13	概論	品質の管理と改善	ものづくり改善における品質管理の考え方、品質管理へのアプローチと品質管理のデータ化を理解する。
14	概論	ものづくりの管理会計	企業の損益計算などの経営指標からものづくりにおける原価計算や製品製造損益などを理解する。
15	講義	現場改善の進め方（事例紹介）と「良い設計・よい流れ」講義	生産革新を推進した現場での改善へのステップ（兆候～改善）について紹介し、理解を深める。
16	手法	生産革新の推進（正味作業時間とVSM）	生産革新は生産のロス削減と「よい流れ」化である事からその重要ポイントである正味作業時間分析とVSM作成を実践する。（ValueStreamMap）
17	実習	現場実習①	実習企業のものづくり現場で、企業運営責任者からの企業の方針と課題等を聞き取り、実際のものづくり現場の見学から活動を開始する。
18	実習	現場実習②	実習企業の現場で、具体的な活動（兆候による課題発見）と「モノの流れ（動線）」の調査を行い、基礎データの収集から改善方策を見出す実習となる。
19	実習	チームディスカッション①	現場実習で発掘した事実とデータをベースに、具体的な改善策の立案と実現性をチームで協議し、取りまとめる。（兆候のまとめ・動線の確認）
20	実習	現場実習③	実習企業の現場で、具体的な活動（動作分析の録画）とVSM作成の為に「ものづくりプロセス」の詳細データの収集と情報連絡網のフローを調査する。
21	実習	チームディスカッション②	現場実習で発掘した事実とデータをベースに、具体的な改善策の立案と実現性をチームで協議し、取りまとめる。（動作分析・工程分析とVSM素案の作成）
22	実習	現場実習④	実習企業の現場で、基礎データの収集による動線分析・動作分析の実情課題の確認、作成したVSMから課題の抽出と改善方策を見出す分析を行う。
23	実習	改善・改良策の施策検討 発表提案書の作成	チームディスカッションから最終的な企業のレベルに合った施策提案を最終提案書（処方箋）としての原案作成を行う。
24	実習	改善案（発表資料）の見直しと修正	実習企業現場の改善提案を企業経営層に対する処方箋を見直し、報告書資料として発表できる内容の協議を行う。
25	実習	改善案の提案（実習先発表）	実習企業現場の改善提案を企業経営層に対して報告書（処方箋）を発表し、企業での実現化を提案する。
26	実習	チーム毎の全体発表会	実習企業現場の改善提案（処方箋発表内容）をチーム間で発表し、相互にディスカッションを行う。
27		閉校式	閉校式及び修了証の授与式

講師のご紹介

講 師	プロフィール
長谷川 俊男	元；富士電機（株）三重工場長。CC事業本部常務取締役、富士電機退任後、（公財）三重県産業支援センターの高度部材イノベーションセンター次長、戦略産業雇用創造プロジェクト班・プロジェクトリーダーを務める。 現在；三重県産業支援センター）北勢支所）中小企業支援コーディネーター 2014年度東京大学MMRCものづくりインストラクター修了生。
井上 正喜	元；富士電機（株）三重工場長。富士電機（株）常務理事）事業部長、生産統括部長 富士電機退任後、三菱重工環境・化学エンジニアリング（株）を経て独立し、井上技術士事務所を開設して中小企業の経営・ものづくり改善支援に従事する。 現在；（公財）三重県産業支援センター）北勢支所）技術支援コーディネーター 技術士（機械部門、総合技術監理部門） 2019年度東京大学MMRCものづくりインストラクター修了生。
佐藤 善厚	元；（株）東芝で生産技術を担当。関係会社の監査役を務めた後、生産合理化におけるトヨタ現場改善手法やシックスシグマのインストラクター等を経験する。退職後、工業研究所や三重県産業支援センターへ前（公財）三重県産業支援センター戦略産業雇用創造プロジェクトでの推進リーダー。
森 一成	元；松下電工（株）。日本で製造管理者、海外で工場経営者を担当した後、生産技術研究所ものづくり企画室にて生産革新をパナソニック全社へ展開。（公財）三重県産業支援センター戦略産業雇用創造プロジェクトコーディネーターを務める。 現在（公財）三重県産業支援センター事業部・経営支援課 地域活性化雇用創造プロジェクト コーディネーター。
岡 吉嗣	元；富士電機（株）出身。富士電機）三重工場での電子制御開発・電子機器製造責任者・生産管理責任者・関連会社富士電機冷機製造生産管理部長 その後、（株）信州富士副社長、富士物流）西日本営業統括者 等歴任し、（公財）三重県産業支援センター戦略産業雇用創造プロジェクトにて、サブリーダーや地域活性化雇用創造プロジェクトのコーディネーターを務める。 現在（公財）三重県産業支援センター）北勢支所）中小企業支援コーディネーター。
富永 博	元；富士電機（株）設計開発）技術部長 富士電機ホールディング副理事（海外駐在） 三好化成）三好化成材料（蘇州）副総経理 （公財）三重県産業支援センター）戦略産業雇用創造プロジェクトにて コーディネーターを務める。 現在 三重県工業研究所）金属研究室 試験研究サポーター。
長野 洋史	元；三鈴工機（株）常務取締役 生産事業本部長 （公財）三重県産業支援センター）戦略産業雇用創造プロジェクトその後、（公財）三重県産業支援センター）地域活性化雇用創造プロジェクトにて コーディネーターを務める。 又、三重ものづくりインストラクター養成塾事務局も経験した。 現在；三重県産業支援センター 地域活性化雇用創造プロジェクト コーディネーター。

【申込方法】

◆申込期限

令和4年8月19日（金）（第1次締め切り日）

◆申込方法

所定の受講申込書に必要事項を記入の上、下記住所へ郵送（FAX）又は持参にてご提出ください。

企業OBの方、企業支援機関の方は別の申込書をお使いください。

<必要書類>

- ・申込書（三重ものづくり改善インストラクター養成塾申込書企業現役用）

※以下URLからダウンロードしてご利用ください。

<https://www.miesc.or.jp/>

- ・会社案内（企業現役の方のみ）

※ご記入頂きました内容については、公益財団法人 三重県産業支援センターの個人情報保護方針に基づき取り扱うと共に必要な範囲でのみ利用いたします。

※ご提出いただいた申込書、会社案内は、採用の可否にかかわらず返却いたしませんのでご了承ください。

【お申込み先・お問い合わせ先】

〒510-0074 三重県四日市市鵜の森1丁目4-28(マニテック 1F)

（公財）三重県産業支援センター 北勢支所

中小企業支援課 担当：長谷川、井上、小池

TEL：059-327-5830 FAX：059-327-5831

URL: <https://www.miesc.or.jp/> E-mail: kaizen@miesc.or.jp